

2025年東京国際セミナー：次世代に向けて

世界遺産をめぐる紛争と対話

解釈と意味の断層を超えた対話と、対話を支えるコミュニティ

日時：2025年6月14日(土) 10:00-17:30

会場：早稲田大学（3号館401）およびオンライン

言語：日英（同時通訳）

主催：早稲田大学 国際先導研究の国際和解学の探究プロジェクト、
ソウル大学校 国際問題研究所ICOMOS-ICIP、Our World Heritage

概要

「戦争」、「植民地支配」、「近代化」、「発展」など、近代に発生した多様な政治的現象と、世界遺産は、直接・間接にかかわっています。国民が集合的記憶を共有して成立するものであり、それが各国で異なっているとすれば、世界遺産をめぐる、その意味や解釈をめぐる紛争が発生するのは、ある種、必然でしょう。しかし、永遠の紛争状態を放置することは未来への無責任です。歴史の多面的理解と対話の可能性を探るべく、明治日本の産業遺産や佐渡金山を含む複数の事例における紛争の展開、およびその理論的検討に焦点を当て、多様な地域・世代・価値観を意識しながら、専門家と若手研究者が一堂に会し、世界遺産のための語り方を模索します。

全体プログラム

10:00–10:15 開会挨拶

司会：長澤裕子（早稲田大学・ソウル大学）

歓迎挨拶：浅野豊美（早稲田大学、国際先導研究 国際和解学の探究プロジェクト代表）

開会挨拶：Kerime Danis（ICOMOS-ICIP会長）、趙東俊（ソウル大学）

Mizuko Ugo（学習院女子大学、OWH代表）

10:15–12:00 セッション1 | 日本の世界遺産の「不協和音」をどう読み解くか

発表：中野涼子（金沢大学）、坂井秀弥（新潟県立歴史博物館 館長）、金 英丸(民族問題研究所)

討論：崔在憲（建国大学）、Andrew Gordon（ハーバード大学）、岡田保良（国士舘大学）

13:30–15:10 セッション2 | 多様な記憶と地域間対話の実践

発表：Kamil Zeidler（グダニスク大学）、黄淑美（国立台湾大学）

Hiba Alkhalaf（キングスカレッジ）、Tokie Laotan-Brown（OWH）

討論：Zhu Yujie（豪・ANU）、Shikha Jain（DRONAH）、Bekeh Ukelina（SUNYコートランド校）

15:30–17:20 セッション3 | 若者による語りと未来への遺産解釈

発表：Devina Dimri（UCL）、Hyunjae Kim（ケンブリッジ大学）、Huzeima Mahamadu（ANU）

Beixi Sun（リバプール大学）、池上慶徳（国際基督教大学）

討論：長澤裕子（早稲田大学）、李貞善（東京大学）、金志憲（ソウル大学）

ポスター発表：アジア・欧州・中東各国の若手研究者7名

17:20–17:30 閉会挨拶

司会：金志憲（ソウル大学）

総括：浅野豊美（早稲田大学）、趙東俊（ソウル大学）

参加無料、
オンライン配信あり
（事前登録制）

